



羽田空港にバードレーダー設置

羽田空港の RWY16L、RWY23、RWY34L の滑走路末端近辺に、水平方向と垂直方向に回転するレーダーが新設されているのをご存知でしょうか？ これはバードレーダー（鳥検知レーダー）と呼ばれるものです。



羽田空港では交通量の増加と共にバードストライクが年々増加し、昨年発表された **2011 年の発生件数は 237 件で過去最多**となりました。これは国内空港における発生件数全体の 15% を占めるに至っています。そこで今年度から、夜間でも鳥を物体として補足出来るレーダー6基を導入し、1.5 キロ先の小鳥をも映し出し、その映像を自動で解析して鳥の種類を判別することができる監視カメラ 3 台を組み合わせた、世界初のシステムを採用しました。

これを利用して、羽田空港では、バードレーダーの情報を基に鳥の予想飛来コース近辺へ監視員を出動させ、鳥を待ち構えて追い払うという効率の良い運用が開始されました。

現在の運用では鳥を追い払うという用途に使われていますが、将来的にはドイツ・フランクフルト空港（※）で行われているような、鳥の飛来を感知・予測し、離着陸する航空機に対して鳥情報を提供し、バードストライクの未然防止に利用されることも予想されます。

※ドイツ・フランクフルト空港では、空港近くを流れる川に水鳥が行き来することが多く、滑走路延長線上に位置する川の上流と下流の2箇所には鳥検知のレーダーを設置し、鳥の往来情報を離陸許可発出の判断に使用しています。

IFALPA AGE Committee では数年前からバードレーダーに関する多くの議題が挙がっており、バードレーダーから得られた 情報をどのように実運航に活かしていくか について活発な議論が行われています。

空港関連の疑問、質問、要望など、こちらまで御遠慮なくどうぞ！！

< airport@alpajapan.org >

